

令和4年度 国語科 3学年 年間指導計画・評価計画

《1》教科の目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。

《2》各学年・各分野の目標
1、社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
2、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
3、言葉が持つ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

《3》評価の観点及びその趣旨

知識及び技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
思考力・判断力・表現力等	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
学びに向かう力、人間力等	言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

《4》観点別評価の評価基準と評定

観点別 評価基準	A	十分に満足できる状況である。(80%以上)
	B	おおむね満足できる状況である。(50%以上)
	C	努力を要する状況である。(50%未満)

評定	5	十分に満足できる状況であるもののうちで、特に程度が高いもの。(90%以上)
	4	十分満足できる状況である。(80%以上90%未満)
	3	おおむね満足できる状況である。(50%以上80%未満)
	2	努力を要する状況である。(20%以上50%未満)
	1	一層努力を要する。(20%未満)

《5》指導上の配慮事項

- ① 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図る。
- ② 必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫する。
- ③ 「話すこと・聞くこと」に関する指導については、音声言語のための教材を積極的に活用するなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
- ④ 「書くこと」に関する指導については、実際に文章を書く活動を重視する。
- ⑤ 「読むこと」に関する指導については、さまざまな文章を読んで、自分の表現に役立てられるようにすると

ともに、他教科等における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行う。

- ⑥ 言語能力の向上を図る観点から、外国語科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにする。
- ⑦ 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行う。
- ⑧ 道徳科などとの関連を考慮しながら、国語科の特質に応じて適切な指導をする。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価基準
4月	世界はうつくしいと 1時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	1 詩を通読する。 ◇読むスピードや音量、読む人数などを変えて、詩を複数回朗読させる。詩の内容を考えながら句点で句切りながら交替で音読するのもよい。 2 詩を読み深める。 ・詩を読んで感じた素朴な疑問を質問の形にして書き出す。 ◇言葉・文字の使い方・リズム・表現技法などに着目させるとよい。 ・隣どうして質問し合い、お互いに相手の質問について考えたことを伝える。それを踏まえて、自分なりの答えを考える。 ・自分にとっての「うつくしいもの」を考え、グループで交流する。 3 詩の特徴を生かして朗読する。 ・自分なりの解釈を踏まえて、詩をもう一度朗読し、最初に読んだときと比べて、詩に対する印象はどのように変わったか、自分の言葉でまとめる。	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ →詩に用いられている語句や表現に着目して考えている。 【態】 進んで語感を磨き、友達の考えや今までの学習を生かして詩の解釈や朗読をしようとしている。
1 深まる学びへ				
4月	握手 4時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →P25 言葉	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。(1)イ →時間・場所など、「現在」と「回想」の部分を読み分けるポイントとなる語句や、登場人物の心情や人物像を表す言葉、比喩表現などに着目している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えようとしている。(C(1)ア) →「現在」と「回想」の部分を読み分け、物語の展開のしかたの効果について考えている。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えようとしている。(C(1)イ) →文章の内容に沿って登場人物の生き方や価値観を読み取り、自分の知識や経験と比較しながら考えている。 【態】 粘り強く物語の展開のしかたを捉え、学習課題に沿って作品を批評したり、考えたことを伝え合ったりしようとしている。
		2	2 作品の設定を捉える。 ・「現在」と「回想」の部分を読み分け、時間の順序を整理しながら、場面や登場人物の設定を確認する。(学習①-1) ・展開のしかたにどんな特徴や効果があるか話し合う。(学習①-2) ◇回想を織り込んだ展開の特徴を捉え、その効果を考えさせる。 →P24 窓 「展開のしかたを捉える」	
		3	3 登場人物の人物像を読み取る。 ・「ルロイ修道士」の人物像が読み取れる言動を抜き出し、どのような人物であるかを短くまとめる。(学習②-1) ◇「ルロイ修道士」の場面ごとの状況や立場、年齢などを踏まえ、エピソードから読み取れる性格や価値観、ものの見方や考え方を捉えさせる。 ◇人物像を表す言葉の一覧を示し、活用させるとよい。 4 登場人物の心情を読み取る。 ・「わたし」と「ルロイ修道士」との間でかわされた、3回の握手に込められた二人の思いを考える。(学習②-2) ・「ルロイ修道士」の葬式で、「わたし」が「知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた」ことの意味を考える。(学習②-2) ◇語り手の心情を表す言葉、登場人物の言動や会話、情景描写、出来事など、本文中の表現を根拠にして考えさせる。 ◇心情を表す言葉の一覧を示し、活用させるとよ	

		4	い。 →P232^質「文学的な文章を読むために」 5 読み深めた感想を交流する。 ・読み深めたことを踏まえ、「ルロイ修道士」の考え方や生き方について、自分で考えたことや感じたことを書く。(学習③) →P284^質「語彙を豊かに」 6 学習を振り返る。 ・「握手」の展開のしかたにはどんな特徴や効果があったか、自分の言葉でまとめる。 ・「ルロイ修道士」の生き方や価値観について語り合い、考えが深まったことを挙げる。	
4月	【聞く】評価しながら聞く 1 時間 ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 ペットに関する討論会の一部を聞き、メモを取る。 ・「ペットを飼うことを人にすすめるか」について自分の考えをもつ。 ・P26「討論会の一部」を自分の考えと比較したり、内容や表現のしかたを評価したりしながら聞き、メモを取る。 ◇教科書を見せず、音声だけで内容を把握させる。 →DVD・二次元コード ・メモの例と「上達のポイント」を参考にして、自分のメモの取り方を評価する。 →P9「思考の地図」 →P239^質「情報整理の方法」 2 評価しながら聞く練習をする。 ・4人グループを作り、2人が話し合い、残り2人は聞き取りメモを取る。 ・話し合った2人は聞き取りメモについて、メモを取った2人は話し合いで出た意見の内容や表現のしかたについて評価し、伝え合う。 ・役割を交代して、活動をもう一度行う。 ◇ペットを飼うことについて改めて話し合った後、別の聞き取り教材を教師が準備して、生徒に続きを話し合わせたりしてもよい。 →P240^質「発想を広げる」 3 学習を振り返る。 ・自分の考えと比べたり、表現に生かしたい点を意識したりしながら聞いたか。	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。((2)イ) →根拠としている情報について、事実関係や裏付けなどに注意して聞いている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →自分の意見と根拠を明確にし、相手の立場から予想される反論についても考えている。 ・「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)エ) →立場ごとの主張と根拠、共通点と相違点を整理してメモを取り、根拠の適切さや自分の考えとの違い、取り入れた表現などを伝え合っている。 【態】聞き取った内容や表現のしかたを進んで評価し、今までの学習を生かしてメモしようとしている。
4月	季節のしおり 春 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	-	・春の気象にまつわる言葉や、春の情景を詠んだ和歌や短歌、俳句、漢詩を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P28「学びて時に之を習ふ」、P70「俳句の可能性」、P148「君待つと」などの資料として用いてもよい。 ◇春をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →作品中の「春」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
5月	学びて時に之を習ふ	1-2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のね	【知・技】歴史的背景などに注意して古典を

	——「論語」から 2時間 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★漢文を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)		らいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 「論語」という作品について知る。 ・教材冒頭の解説とP30の出典を読む。 ◇国語便覧や社会科資料集などを使って、孔子が生きた時代の歴史的背景などを確認させる。 2 「論語」を読み、孔子の考え方を読み取る。 ・教材の書き下し文や訓読文を、漢文の言い回しに注意して、繰り返し朗読する。 ◇必要に応じて訓読の方法や返り点の種類などを確認させる。 →DVD・二次元コード →P31「漢文の訓読」 ・脚注を参考にして現代語訳を作り、孔子の考え方を読み取る。 ◇生徒の実態に応じて、現代語訳を配布したり、現代語訳作りを家庭学習にしたりしてもよい。 3 日常生活や自分の生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまると思われる体験や伝聞を伝え合う。 ◇「論語」の他の章句も現代語訳を付けて紹介し、選択肢を増やすとよい。 4 学習を振り返る。 ・「論語」の中から、自分たちの生活に生かしていきたい言葉を選び、伝え合う。	読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →教材文を参考に歴史的背景を押さえ、教材の書き下し文や訓読文を読むことを通して、「論語」の世界に親しんでいる。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →孔子の人間の生き方に関する考えを、自分の生き方や生活と関連づけて考えている。 【態】人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見をもち、今までの学習を生かして朗読したり考えを伝え合ったりしようとしている。
5月	情報整理のレッスン 情報の信頼性 1時間 ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	1 P32下段の問題について、グループで考える。 2 教材文を通読する。 ・情報は編集されているため、情報の信頼性を確かめる必要があることを知る。 ・「確認の方法①」の「チェックポイント」の観点を参考にして、P32下段の問題を振り返る。 ・実際に本を手にとって、「確認の方法②」の「チェックポイント」の内容について確認する。 3 学習を振り返る。 ・さまざまなメディアが伝える情報はすべて編集されていることを理解し、信頼性の確かめ方について確認する。	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ) →情報の発信日時、発信源、情報の目的などの観点から、情報の信頼性を確認している。 【態】学習課題に沿って情報の信頼性の確かめ方を理解し、積極的に使おうとしている。
5月	文章の種類を選んで書こう 修学旅行記を編集する 4時間 ◎文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 4, 5人のグループで編集会議を開く。 ・修学旅行で心に残った出来事などを、付箋やカードなどに書き出す。 ・メモを整理し、P37「目次の例」を参考に掲載する記事の内容や順序などの大枠を決める。 →P9「思考の地図」 →P239「情報整理の方法」 ・P34下段「①文章の種類を決める」を参考にしながら記事の内容を効果的に伝えられる文章の種類や、文章に添える図表や写真について話し合い、担当するページを決める。 →P244「グラフの活用／引用・出典」 2 紙面構成を考えて下書きをする。 ・P35下段を参照し、文章の種類に合わせて、内容や順序、図表や写真の配置などを工夫し、わかりやすい紙面構成を考え、下書きする。 →P36「修学旅行記の紙面例」 →P37「紙面作成のポイント」 →P284「語彙を豊かに」	【知・技】文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)ウ) →随筆、物語、報道文など、さまざまな種類の文章があることを理解している。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →修学旅行で心に残った出来事から題材を選び、その題材に関する情報や図表、写真を集め、出典を明らかにして記事の中で活用している。 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →担当した記事の内容が効果的に伝わる文章の種類を選択し、その種類

	態度) ★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	3 3 下書きを読んで助言し合い、清書する。 ・P37「魅力的な紙面を編集するには」の観点を参考にして、お互いの下書きをチェックし合う。 ◇ポイントや評価規準をまとめたチェックシートを用意し、参考にさせてもよい。 4 冊子にまとめ、読み合う。 5 学習を振り返る。 ・どんな点に注意して文章の種類を選び、書いたか。 ・どんな点を工夫して編集したか。	に合わせた文章の構成や表現を工夫している。 【態】進んで文章の種類を選択し、学習の見通しをもって情報を編集し文章にまとめようとしている。
5月	漢字 1 熟語の読み方 漢字に親しもう 1 1 時間 ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1 1 導入の例から、漢字二字の熟語には、音または訓を重ねる読み方と、音と訓を組み合わせた読み方があることを知る。 2 教材文を読み、さまざまな熟語の読み方について理解する。 3 練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 ◇P301「三年生で学習した音訓」やP302「常用漢字表」、P316「常用漢字表 付表」、漢和辞典などで、音読みと訓読みを確認させる。 4 P40「漢字に親しもう 1」の問題に取り組む。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 →P290「三年生で学習した漢字」 →P301「三年生で学習した音訓」 →P302「常用漢字表」	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →漢字の音訓や、熟語における音訓の組み合わせに注意して、漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
2 視野を広げて			
5月	作られた「物語」を超えて 3 時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★論説などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	1 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →DVD・二次元コード (ドラミング) →P49「言葉」 2 筆者の問題意識(話題)を捉える。 ・この文章では、「物語」という言葉を、どのような意味で用いているか、文脈に即して読み取る。(学習①-1) ・ゴリラについて作られた「物語」とは、どんなものか、また、それはどのような経緯で作られたのか、説明の要旨を捉える。(学習①-2) ・ゴリラの観察を通して、どんなことがわかったか、説明の要旨を捉える。(学習①-3) 2 3 筆者の主張と論理の展開を捉える。 ・筆者は、ゴリラなど野生動物の事例から、人間に共通するどんな性質を導き出したか、また、その性質は、人間の社会にどんな状況をもたらすと考えているかを捉える。(学習②-1) ・筆者は、作られた「物語」を超えて真実を知るためには、どうすべきだと主張しているか、要約する。(学習②-2) ・本文を序論・本論1・本論2・結論に分け、ゴリラなど野生動物の事例から、筆者の主張に至る論理の展開を説明する。(学習②-3) ◇「具体と抽象」、「原因と結果」、「意見と根拠」などの概念を使って論理の流れや関係などを整理させるとよい。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →ゴリラの事例と人間社会の話に着目して、具体と抽象の関係を理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →論説の特性を踏まえ、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などの関係に着目して、論理の展開のしかたを図式化するなどして捉えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などの関係に着目して、それらが文章の中で無理なく結び付いているかを確かめながら、自分の考えをまとめている。 【態】進んで文章の構成や論理の展開のしかたについて評価し、情報と情報の関係について深めた理解を生かして、文章にまとめようとしている。

		3	→P50「思考のレッスン 具体化・抽象化」 →P234資「説明的な文章を読むために」 →P236資「情報と情報との関係」 4 筆者の主張と論理の展開を評価する。 ・自分の体験や見聞きした事例を根拠にして、筆者の主張に共感できるか否かをグループで話し合う。(学習③-1) →P26「評価しながら聞く」 ・「主張に至る論理の展開は、わかりやすく適切か」、「読み手の共感を得るのに有効か」という観点で、筆者の論理の展開を評価し、根拠を明確にしながら、考えたことを文章にまとめる。(学習③-2) →P48窓「論理の展開を評価する」 →P284資「語彙を豊かに」 5 学習を振り返る。 ・「物語」を作り、伝えたがる人間の性質を踏まえて、自分が今後、意識していきたいと思うことを語り合う。 ・論理の展開を評価するときには、どんな点に着目するとよいか、自分の言葉でまとめる。 →二次元コード (筆者のインタビュー)	
6月	思考のレッスン 具体化・抽象化 1 時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	1 P50の教材文を通読する。 ・具体と抽象の関係で捉えられるものや、具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたについて理解する。 ・下段の問題1に取り組む。 ◇「抽象への展開を示す言葉」を活用させるとよい。 ・まとめた文をお互いに伝え合う。 →P236資「情報と情報との関係」 2 P51の教材文を通読し、具体化と抽象化の程度について理解する。 ・下段の問題2に取り組む。 ◇「例えば」以外にも、P50「具体への展開を示す言葉」を活用させるとよい。 ・グループになって、各自が作った具体例の具体化の程度を順序づけ、全体に発表する。 ◇問題2の答えを付箋紙に書かせておくと、グループでの分類作業が効率的に行える。 ◇ICT機器などを活用して、発表内容を全体で共有できるように工夫するとよい。 3 学習を振り返る。 ・文章を読んだり書いたりするときには、具体と抽象の関係についてどんなことに注意すればよいか確認する。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたや、抽象と具体の程度を捉えながら読んだり書いたりしている。 【態】具体と抽象の関係について積極的に理解し、学習した内容を生かして課題に取り組もうとしている。

6月	説得力のある構成を考えよう スピーチで社会に思いを届ける 資料 リオの伝説のスピーチ 4 時間 ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように	1 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 話題を決めて、情報を集める。 ・P56「リオの伝説のスピーチ」を通読する。 ・P52下段を参照させ、社会で起きている出来事や問題の中で、多くの人に伝えたいと思ったことを選び、話題にする。 →P240【資】「発想を広げる」 ・スピーチの目的と、スピーチをする相手や場を確認し、信頼性の高い情報を集める。 →P32「情報整理のレッスン 情報の信頼性」 →P239【資】「情報整理の方法」 2 2 話の構成を考える。 ・P53「観点」や下段を参考にしてスピーチの構成を考え、構成メモにまとめる。	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ) →情報の発信者・出典、調査方法、情報の数などが適切か確認して、必要な情報を集めている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →話す目的や相手を明確にし、相手の立場に立って、伝える必要がある情報を選んでいる。 ・「話すこと・聞くこと」において、自分
	論理の展開などを考えて、話の構成を工夫することができる。 (思・判・表A(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。 (思・判・表A(2)ア)	3-4 3 ・構成メモの内容について、P55【窓】「聞き手の心に訴えるスピーチをするために【内容を考えるとき】」を参考にして、グループやペアで評価し合い、推敲する。 ◇ポイントや評価規準をまとめたチェックシートを用意して参考にさせてもよい。 3 スピーチの会を開く。 ・推敲した構成メモを基に、P54「スピーチの例」やP55「スピーチで大切な三つのポイント」、P55【窓】「聞き手の心に訴えるスピーチをするために【発表するとき】」を参考にスピーチをする。 ◇ポイントや評価規準をまとめたチェックシートを用意して参考にさせてもよい。 ◇聞き手が感想を伝えたり質問したりする時間を取る。 →DVD・二次元コード →P26「評価しながら聞く」 →P55「質疑応答の例」 ◇生徒たちが自分のパフォーマンスを振り返ることができるよう、ICT機器を使ってスピーチや質疑応答の様子を録音・撮影しておくとうい。 4 学習を振り返る。 ・根拠とする情報は、信頼性の高いものを選んだか。 ・聞き手の心を動かすスピーチをするために、どんなところに気をつけたか。	の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →興味を引く導入や明確な主張、聞き手が納得できる根拠や提案の設定、適切な説明の順序などを考えて、話を構成している。 【態】相手を説得できるように粘り強く論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、今までの学習を生かして自分の考えを話そうとしている。
6月	漢字に親しもう2 1 時間 ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうと	1 1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。 ◇漢字の音訓、部首、送り仮名などの既習事項を思い出させる。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 →P290【資】「三年生で学習した漢字」 →P301【資】「三年生で学習した音訓」 →P302【資】「常用漢字表」	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

	する。(主体的に学習に取り組む態度)			
6月	文法への扉 1 すいかは幾つ必要？ 1 時間 ◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。(2年知・技(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	1 教材文を読み、文法的な観点から表現を見直すことの意義を確認する。 - 導入の課題に取り組み、果物の個数について、母と息子の間で誤解が生まれた原因について考える。 - 誤解の原因を指摘し、母親はどのように伝えるべきだったのか話し合う。 2 P212「文法1 文法を生かす」を読み、文節・連文節の係り受けなど、既習の文法について理解を深め、文法の知識を表現や読解に生かすポイントを確認する。 - 下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確認する。 →P210「文法 一、二年生の復習」	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めている。(2年(1)オ) →既習の文法事項が、日常の会話や文章を見直したり文の表現効果を考えたりする際のポイントになることを理解している。 【態】助詞や助動詞の働きなどを進んで振り返り、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとしている。
情報社会を生きる				

6月	実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう 3時間（読②書①） ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア) ★実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える。(思・判・表C(2)ウ)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 社会生活の中で触れたことのある実用的な文章を挙げる。 2 P62「やってみよう」①に取り組む。 ・大人用と子供用のパンフレットを読み比べ、共通点と相違点を書き出す。 ◇漢字、言葉遣い、表現、情報、レイアウトなどの観点ごとに表で比較させるとよい。 ・子供用のパンフレットに見られる工夫を発表する。 →P9「思考の地図」 →P239「情報整理の方法」 →P284「語彙を豊かに」 3 P63「やってみよう」②に取り組む。 ・傍線部について、小学校3年生のみどりさんにわかるように説明する。 ・木村さん役とみどりさん役に分かれ、交代で説明する。みどりさん役は、説明を聞いてもよくわからなかったことを質問する。 ◇活動を始める前に、インターネットなどを使ってわからない箇所の意味を調べさせるとよい。 ◇生徒たちの活動を観察し、適切なペアを指名して、全体の前でやり取りを発表させるとよい。 4 P63「やってみよう」の③に取り組む。 ・木村さんが注意すべき情報に傍線を引き、なぜ注意すべきなのか理由も考える。 ・木村さん役と家族役に分かれ、傍線を引いた情報について交代で説明する。 ◇相手と目的を踏まえて説明させる。相手は、自転車についての情報のない「家族」である。また、説明する目的として考えられるのは、「許可をもらうため」、「お願いをするため」、「相談をするため」などが考えられるので、それぞれの目的に合った説明のしかたを考えさせる。 ◇生徒が木村さん役、教師が家族役として活動してもよい。 5 P64～67の報道文 A・B を通読し、P68「やってみよう」に取り組む。 ・着眼点を参考に、「見出し」「リード文」「本文」「写真」の観点から、二つの記事を比べ、気づいたことや考えたことを表にまとめる。 ◇P68の表を基に、続きを書けるワークシートを用意するとよい。 ◇なかなか書き出せない生徒は、P68「ここに注目」を読ませて参考にさせたり、P284「語彙を豊かに」の言葉を活用させたりするとよい。 ・4, 5人のグループになり、表に書き出した内容を共有し、共通点や違いに着目して、気づいたことや考えたことを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・実用的な文章を読むときや書くときのポイントには、どのようなものがあつたかを挙げる。 ・報道文には発信者の意図が反映されていることを踏まえて、自分が今後、報道文を読む際に意識していきたいと思うことを伝え合う。	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ) →実用的な文章の資料ごとに、情報の発信者・発信時・発信目的を確認している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →事実や事例の選び方、取り上げ方や語句の選び方に着目して文章を読み、書き手の思惑や意図について考えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →読み手に必要な情報を過不足なく伝えているか、読み手の状況に合わせた言葉や表現を使っているか、不親切で誤解を招く表現になっていないかなどの点に着目して文章を読み、課題に取り組んでいる。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →観点ごとに情報を整理し、着眼的を参考に情報の客観性や信頼性を確認しながら表にまとめている。 【態】積極的に情報の信頼性の確かめ方を使って読み、学習したことを踏まえて実生活への生かし方を考えようとしている。また、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて進んで評価し、学習課題に沿って報道の文章を比較し、考えをまとめようとしている。
----	--	---	--	---

3 言葉とともに				
7月	俳句の可能性 俳句を味わう 【書く】俳句を作って楽しもう 3時間（読②書①） ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)イ） ◎文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。（知・技(1)ウ） ◎文章の構成や表現のしかたについて評価することができる。（思・判・表C(1)ウ） ◎多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。（思・判・表B(1)イ） ◎表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（主体的に学習に取り組む態度） ★詩歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。（思・判・表C(2)イ） ★俳句を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。（2年思・判・表B(2)ウ）	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 情景を想像しながら、それぞれの俳句を朗読する。（学習①） ◇「いつ」「どこで」「誰が」「何を」しているかを具体的に想像させ、伝え合わせるとよい。 2 本文を読み、俳句についてまとめる。 ・「季語」「有季定型」「歳時記」「切れ字」「自由律俳句」「無季俳句」の意味を確認する。（学習②-1） ・本文中から、筆者のものの見方や感じ方がよく表れている語句や表現を抜き出して、意味を確認する。（学習②-2） ・本文やP74「俳句を味わう」から、好きな俳句を一句選び、短い鑑賞文を書く。（学習②-3） ◇感じたことや想像したことだけではなく、そうさせた表現や特徴を具体的に示させる。 →P284【資】「語彙を豊かに」 ・同じ俳句を選んだ生徒でグループを作り、鑑賞文を読み合う。 3 P75「俳句を作って楽しもう」に取り組む。 ・名人の作句法などを基に、俳句を作る。 ◇学校図書館から、名句集や歳時記などを借りてきて、参考にさせるとよい。 ・作品を持ち寄り、P75「句会を開こう」を参考に、句会を行う。 →二次元コード ◇選んだ俳句や紹介された俳句のよい点をメモさせるとよい。 4 学習を振り返る。 ・俳句の特徴にはどのようなものがあつたか確かめる。 ・次に俳句を作るときに参考にしたい語句の使い方や表現のしかたをまとめる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)イ） →俳句で使われている語句の意味を理解したり、豊かなイメージを喚起する効果的な語句に着目したりしている。 ・文章の種類とその特徴について理解を深めている。（(1)ウ） →俳句の形式とその特徴について理解し、俳句を創作している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や表現のしかたについて評価している。（C(1)ウ） →語句の選び方や表現のしかたに着目して俳句を読み、評価している。 ・「書くこと」において、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。（B(1)イ） →伝えたいことが効果的に伝わる構成（語順）を考えて、俳句を創作している。 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。（B(1)ウ） →自分の思いや考えがわかりやすく伝わるように、語句や表現を工夫して俳句を創作している。 【態】進んで文章の種類とその特徴について理解し、学習課題に沿って、鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。
7月	言葉を選ぼう もっと「伝わる」表現を目指して 1時間 ◎時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解することができる。（知・技(3)ウ） ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（主体的に学習に取り組む態度）	1	1 言葉の変化について知る。 ・教材文を読み、「時代による言葉の変化」と「世代による言葉の変化」があることを知る。 2 言葉の変化について話し合う。 ・昔の小説や祖父母との会話などを手がかりにして、時代や世代によって異なる言葉の例を探し、話し合う。 →P246【資】「高瀬舟」 →P272【資】「古典・近代文学の名作」 3 相手や場面によって、言葉を選ぶ。 ・話す相手や場面を設定し、P77下段にある吹き出しの文章をわかりやすく書き換える。 ・書き換えた文章を伝え合い、自分の文章を振り返る。 ・クラス全体で適切な言い方について確認する。 →P78「言葉1 和語・漢語・外来語」	【知・技】時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。（(3)ウ） →古典や近代文学、年配のひととの会話の例などの中から、自分たちの世代とは異なる言葉の使い方を見つけている。 【態】時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて進んで理解し、試行錯誤しながら相手や場面によって言葉を選んで話そうとしている。
7月	言葉1 和語・漢語・外来語	1	1 教材文の導入の例を基に、和語・漢語・外来語か	【知・技】理解したり表現したりするために

	1 時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)		ら受ける印象の違いについて考える。 ・和語・漢語・外来語の表現を比較し、感じ方の違いを伝え合う。 2 教材文を読み、和語・漢語・外来語・混種語について理解する。 ・例を参照しつつ、それぞれの特徴を理解する。 ・P79「生活に生かす」を読み、和語・漢語・外来語をどのように使い分けるのがよいか、生活の中の具体的な場面を想定して考える。 ◇P77「③相手や場面によって、言葉を選ぼう」の課題を振り返らせるとよい。	必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →和語・漢語・外来語について理解し、相手や場面に応じて適切に使い分けている。 【態】進んで和語・漢語・外来語を理解し、今までの学習を生かして相手や場面に応じて適切に使い分けようとしている。
--	---	--	--	--

読書生活を豊かに

7月	読書を楽しむ 1 時間 ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	1 さまざまな読書の楽しみ方について知る。 2 「ブックトーク」、「読書会」、「読書生活をデザインする」の中から、夏休みに行う活動を選ぶ。 ・ブックトーク、読書会を選んだ生徒は、4～6人程度のグループを作る。読書生活のデザインは個人で行う。 ◇学校や地域の状況に応じて、教師が活動を決めてもよい。 ◇P88「本の世界を広げよう」のテーマや本を参考にして、取り組ませてもよい。 3 教材文に示されている各活動の内容に沿って、今後の見通しを立てる。 ◇活動計画書などのワークシートを用意し、配布するとよい。 4 活動を行い、レポートか活動報告書を提出する。 ・読書生活のデザインを選んだ生徒は、P81を参考にレポートを、ブックトークまたは読書会を選んだ生徒はグループごとに活動を行い、活動報告書を夏休み明けに提出する。 ◇レポートや活動報告書のワークシートを用意し、配布するとよい。 ◇次時の「『私の一冊』を探しにいこう」と合わせて指導することも考えられる。 →P9「思考の地図」 →P232資「文学的な文章を読むために」 →P239資「情報整理の方法」 →P284資「語彙を豊かに」	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ) →さまざまな読書の楽しみ方について理解し、読書活動を通して、読書の楽しさや意義を発見している。 【態】進んで読書の意義と効用について理解し、見通しをもって読書を楽しむ活動に参加しようとしている。
7月	「私の一冊」を探しにいこう 羊と鋼の森 読書案内 本の世界を広げよう 読書コラム ためになるってどんなこと？ 1 時間 ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1))	1	リード文や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 教科書本文を通読し、本のさまざまな探し方について知る。 2 学校図書館やインターネットを活用するなど、探し方を工夫して、興味をもてそうな本を探す。 ◇P88「本の世界を広げよう」を参考にしてもよい。 →P90「私の一冊」 →P91「ためになるってどんなこと？」 →P246資「高瀬舟」「二つの悲しみ」「アラスカとの出会い」 →P269資「読書記録をつける」 3 見つけた本を夏休みに読み、書評やポップを書く	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解しようとしている。(3)オ) →本のさまざまな探し方について理解し、興味をもてそうな本を見つけている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →登場人物の生き方、作品に描かれた時代、社会状況などの観点から、自分の考えを書評にまとめている。 【態】進んで読書の意義と効用について理解

[illegible]

9月	故郷 5時間 ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる(知・技(3)オ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★小説を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1-2 3-4 5	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読し、作品の設定を捉える。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・作品の舞台や時代背景を確認する。 ◇国語便覧や社会科資料集などで調べさせるとよい。 ・現在の場面と「私」の回想の場面を確認する。(学習①) →P24 窓「展開のしかたを捉える」 ・「私」と他の登場人物との関係を整理する。(学習①) ◇人物相関図などを使って整理させるとよい。 →P232 資「文学的な文章を読むために」 2 場面や登場人物の設定に着目して読み取る。 ・「故郷の様子」,「ルントウ」,「ヤンおばさん」について、回想の場面と現在の場面とを比べて、描写がどのように変化しているかがわかる部分を、それぞれ抜き出す。(学習②-1) →P239 資「情報整理の方法」 ・「ルントウ」と再会した場面で「私」が感じた「悲しむべき厚い壁」とは何か考える。(学習②-2) ・最後の場面で「私」が抱く「希望」や、望む社会とはどのようなものか、「私」と「ルントウ」,「ホルン」と「シェイション」の関係などを踏まえて捉える。(学習②-3) ・「私」の考え方について自分はどうか考えるか、話し合う。(学習②-4) ◇必ず根拠を入れて自分の意見を述べさせる。 →P26 「評価しながら聞く」 3 作品を批評する。(学習③) ・読み深めたことを踏まえ、作品のもつ特性や価値について批評する。 ・「学習の窓」などを参考に批評の観点を決め、本文や調べてわかった事実を根拠に論じたり、評価したりする。 ◇描かれた内容を自分の知識や経験、考えと比べたり、別の視点や立場から作品を捉え直してみたりするなど、批判的に読ませる。 →P112 窓「小説を批評する」 →P284 資「語彙を豊かに」 4 学習を振り返る。 ・友達の批評を読んで、自分の捉え方との共通点や相違点などを基に、考えが深まったことを発表する。 ・今後、小説を読んで自分の考えをもつために、大切にしたい観点を挙げる。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ) →文学作品を読むことが、自分の人生や自分が生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →自分の知識や経験と比べたり、語り手や人物の立場、時代背景などを変えて読んでみたりして、作品のもつ特性や価値を探っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →「私」が考えている「希望」や望む社会の在り方などについてどう考えるか、根拠に基づいて自分の意見を述べている。 【態】粘り強く文章を批判的に読み、これまでの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたりしようとしている。
----	--	--------------------------------	---	---

9月	聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る 1時間 ◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ) ◎話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 対談の準備をする。 ・3～5人で一組になり、話し手(1人)、聞き手(1人)、聴衆(1～3人)を決める。 ・聞き手役は、話し手から話題を聞き、中心となる質問を考えたり、P115「対談の例」を参考にして話の流れを予想したりする。 ・話し手役は、P115「対談の例」を参考に、話題を選んだ理由や具体的なエピソードなどを考える。 ・聴衆役は、講評メモの用意をする。 →DVD・二次元コード 2 対談を行う。 ・聞き手役は、P114 窓「質問で相手の内面に迫るには」の観点に留意しながら、話し手や聴衆の様子を見て、「具体化」、「価値づけ」、「言い換え」などをして、話を引き出す。 ・聴衆役は、P114 窓「質問で相手の内面に迫るには」の観点に留意して聞き、講評メモを取る。 3 学習を振り返る。 ・話し手、聞き手、聴衆、それぞれの立場から、対談を通して気づいたことや感じたことを交流する。	【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。(1)エ) →話し手や聞き手が、対談の中で、適切な言葉遣いをしている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)エ) →自分の知識や経験などと結び付けながら話を聞き、対談の中で、相手の思いに迫ることができた質問や話を豊かに展開させた応答は、どのようなものだったか捉えている。 【態】粘り強く話の展開を予測しながら聞き、今までの学習を生かして質問したり評価を述べたりしようとしている。
9月	[推敲]論理の展開を整える 1時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 P116 上段の文章を通読し、下段の課題に取り組む。 ・P116 下段「上達のポイント」を参考にする。 ◇「事実と意見」、「意見と根拠」、「具体と抽象」について、既習事項を振り返りながら課題に取り組ませるとよい。 →P236 資「情報と情報との関係」 2 学習を振り返る。 ・どのような点を意識して、意見文を推敲したか。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →「具体と抽象」、「事実と意見」、「意見と根拠」について既習した内容を振り返りながら課題に取り組んでいる。 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。(B(1)エ) →課題に沿って文章を推敲し、論理の展開を整えている。 【態】目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く確かめ、情報と情報との関係の知識を生かして推敲しようとしている。
9月	言葉2 慣用句・ことわざ・故事成語 1時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	1 導入の例のような、一まとまりで決まった意味をもつ言葉をできるだけたくさん書き出す。 →P284 資「語彙を豊かに」 2 教材文を読み、慣用句・ことわざ・故事成語の特徴や性質について理解する。 ・慣用句を使って短文を作る。 ・ことわざや故事成語の意味を調べる。 ・P118「生活に生かす」に挙げられている慣用句やことわざの誤用の例を、生活を振り返って探してみる。 ◇インターネットなどを使って、誤用例を検索させるのもよい。 3 学習を振り返る。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →慣用句を使って短文を作ったり、ことわざや故事成語を調べたりしている。 【態】積極的に慣用句やことわざ、故事成語を理解し、今までの学習を生かして短文を作ったり調べたりしようとしている。
10月	漢字2 漢字の造語力 漢字に親しもう3	1	1 導入の文章を読み、新しい日本語が考え出された経緯を知る。	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでい

	1 時間 ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	2 教材文を読み、「翻訳語」と「新しい語」の側面から漢字の造語力について知る。 3 練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 4 P122「漢字に親しもう3」の問題に取り組む。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 →P290 資「三年生で学習した漢字」 →P301 資「三年生で学習した音訓」 →P302 資「常用漢字表」	る。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →漢字の造語力を意識しながら、漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
5	自らの考えを		
10月	人工知能との未来 人間と人工知能と創造性 3 時間 ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる (知・技(2)イ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★論説の文章を比較して読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたリする。(思・判・表C(2)ア)	1 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 文章の要旨を捉える。 ・内容の信頼性や客観性を確かめながら、それぞれの要旨を捉える。(学習①) ◇筆者の意見とその根拠が書かれているところに印を付けさせるとよい。 →P234 資「説明的な文章を読むために」 2 文章の比較を基にグループで討論し、考えを広げる。 ・観点を決めて二つの文章を比較し、共通点や相違点を表にまとめる。(学習②-1) ・筆者の考えに納得できたこと、できなかったことを手がかりに、「これからの時代に大切なこと」を考え、グループで討論する。(学習②-2) →P242 資「話し合いの方法」 3 自分の考えを文章にまとめる。 ・2で行った討論を基に、「これからの時代に大切なこと」を300字程度で文章にまとめる。 ◇自分の立場を明確にして、根拠となる文章や事実を引用するなどして、説得力のある意見を書かせる。 4 学習を振り返る。 ・人間と人工知能との関わりについて意見を述べる場合、他にどんな立場が考えられるか考える。 ・「批判的に読む」ことは、どういうときに必要だと思うか、自分の考えをまとめる。	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。 →自分の知識や経験と比べ、筆者の意見や根拠に納得できるかどうか検討しようとしている。(2)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →二つの文章を比較して共通点や相違点を表にまとめ、それを基に、話し合っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →自分の立場を明確にし、根拠となる事実を引用するなどして、自分の意見を書いている。 【態】積極的に二つの文章を批判的に読み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。

10 月 多角的に分析して書こう 説得力のある批評文を書く 4 時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。 (思・判・表 B(1)イ) ◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表 B(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。 (思・判・表 B(2)ア)	1 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 批評文について知り、題材を選ぶ。 ・地域社会の中で見聞きしたことや、メディアを通して知ったこと、本や映画など、関心のある事柄や気になった事柄を選ばせる。 ◇友達と題材を挙げ合うとよい。 ◇先に P132「批評文の例」を読み、批評文のイメージをつかませてもよい。 →P240 資「発想を広げる」 2 観点を決めて分析する。 ・広告の例を参考に、対象とする事柄の特性や価値などについて、観点を決めて客観的に分析し、自分の考えを書き出す。 ◇自ら提起した問題について、具体的な根拠を挙げて答えを導かせる。それを基に友達と意見を交流させて、さらに考えを深めさせるとよい。 ◇資料を引用して説得力をもたせるようにする。 3 構成を考える。 ・意見と根拠の関係など、説得力のある論理の展開を考える。 ・自分の考えを支える資料の引用を検討する。 4 推敲して仕上げる。 ・下書きをして友達と助言し合い、清書する。 ◇600～800 字で書くようにさせる。 ◇P132「批評するときの言葉」や「批評文の例」下段の文型を参考にさせるとよい。 →P133 窓「説得力のある批評文を書くには」 →P284 資「語彙を豊かに」 5 学習を振り返る。 ・どのように分析・吟味して批評をまとめたか。 ・どのような工夫をして文章にまとめたか。 ◇分析や資料の引用、論理の展開や言葉の選び方などに着目して評価し合うとよい。 →P244 資「グラフの活用／引用・出典」	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →具体的な題材を基に、その価値についてまとめている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。 (B(1)イ) →観点を決めて問いと考えを書き出し、表にまとめるなどして分析している。 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の意見を支える根拠となる資料を引用するなどして構成を考え、批評文を書いている。 【態】粘り強く表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりし、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。
10 月 漢字に親しもう 4 1 時間 ◎第 2 学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1 1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。 ◇熟語の構成、部首、漢字の音訓などの既習事項を思い出させる。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 →P290 資「三年生で学習した漢字」 →P301 資「三年生で学習した音訓」 →P302 資「常用漢字表」	【知・技】第 2 学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

	感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩の構成や展開, 表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表 C(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに, 読書を通して自己を向上させ, 我が国の言語文化に関わり, 思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)		・近代に作られた文語定型詩を読み, リズムや響きなどについて気づいたことを話し合う。 2 語句の意味や表現に込められた作者の思いを読み取り, 感じたことを発表し合う。 ・詩に描かれた情景と詩の中の人物の心情を想像する。 ◇「初恋」という詩から読み取った思いと自分の経験を結び付けて想像させる。	ている。 【思・判・表】「読むこと」において, 詩の構成や展開, 表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →文語定型詩の構成や場面の展開に注意して, 表現された情景や心情を想像している。 【態】進んで語感を磨き, 今までの学習を生かして朗読したり自分の考えを述べたりしようとしている。
11 月	季節のしおり 秋 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し, 語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに, 読書を通して自己を向上させ, 我が国の言語文化に関わり, 思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	—	・秋の気象にまつわる言葉や, 秋の情景を詠んだ和歌や俳句, 漢詩を味わい, 伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P28「学びて時に之を習ふ」, P70「俳句の可能性」, P148「君待つと」などの資料として用いてもよい。 ◇秋をテーマにした他の詩歌を探し, 交流することもできる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し, 語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →作品中の「秋」を感じさせる言葉に着目し, 情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして, 積極的に語感を磨き, 言語文化を大切にしようとしている。
6 いにしえの心を受け継ぐ				
11 月	和歌の世界 音読を楽しもう 古今和歌集 仮名序 1 時間 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して, その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに, 読書を通して自己を向上させ, 我が国の言語文化に関わり, 思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	1「和歌の世界」を読む。 ・「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」について興味をもつ。 ◇三大和歌集について時代背景や作者, 作風などを整理させる。 →P272 資「古典・近代文学の名作」や P278 資「日本文学の流れ」で文学史を知り, 歴史的背景に興味をもたせるとよい。 2「古今和歌集 仮名序」冒頭部分を朗読し, 作者の思いを想像する。 ・歴史的仮名遣いに気をつけて朗読し, 古文の言葉の響きやリズムを味わう。 ◇「和歌」を植物の種と葉にたとえていることを知り, 現代語訳や語注を参考に, 作者が和歌をどう捉えていたかを想像させる。 → DVD・二次元コード	【知・技】歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して, その世界に親しんでいる。(3)ア) →「和歌の世界」を読んだり, 「仮名序」を朗読して比喩的な効果を確認したりしながら, 和歌に対する古人の思いを捉えようとしている。 【態】進んで古典の世界に親しみ, 今までの学習を生かして朗読しようとしている。
11 月	君待つと ——万葉・古今・新古今 2 時間 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して, その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎和歌の表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表 C(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに, 読書を通して自己を向上させ, 我が国の言語文化に関	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し, 学習の見通しをもつ。 1 和歌を声に出して読む。 ・朗読を通して言葉の響きやリズムを楽しむ。 ◇歴史的仮名遣いに気をつけて朗読させ, 脚注を参考に, 長歌や反歌など和歌の形式を味わわせる。 → DVD・二次元コード 2 和歌の世界を味わう。 ・現代語訳や語注を参考に, 和歌に詠まれた心情や情景を想像し, 用いられている表現技法について知る。 ・三つの和歌集の歌を比較して, 表現について感じたことなどを話し合う。 →P153「和歌の表現方法」 ◇自分の選んだ和歌に用いられている表現技法に気づかせ, グループで共有させる。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して, その世界に親しんでいる。(3)ア) →三つの歌集の歌を比較したり朗読したりして, それぞれの作者の心情や情景を想像している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ) →気に入った言葉や表現の効果などに気づき, 引用している。 【思・判・表】「読むこと」において, 和歌の表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →心情や情景, 和歌の表現方法などについて自分の考えをもっている。 【態】進んで和歌の表現のしかたについて評

	わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主體的に学習に取り組む態度) ★和歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	2	◇P153「和歌の表現方法」を読み、他の表現技法について興味をもたせることも考えられる。 3 心に響いた和歌を一首選び、鑑賞文を書く。 ・脚注などを参考にしながら心情や情景を考える。 →P27・P92・P142・P194「季節のしおり」の和歌などを用いて選択肢を増やしてもよい。 ◇鑑賞文の書き方のポイントを示すとよい。 ◇心に響いた言葉や表現を引用して友人に思いを伝える文章を書く学習も考えられる。 →P162「古典の言葉を引用し、メッセージを贈ろう」 4 学習を振り返る。 ・どの和歌から、どのようなことを想像したか述べる。 ・どのような表現や内容に着目して鑑賞したか挙げる。	話し、見通しをもって鑑賞文を書こうとしている。
11 月	夏草 ——「おくのほそ道」から 〔書く〕古典の言葉を引用し、メッセージを贈ろう 4 時間 (読③書①) ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。 (思・判・表B(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主體的に学習に取り組む態度) ★古典の文章を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	1 2 3 4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を朗読する。 ・俳句と地の文から成る構成の効果に気づき、芭蕉の思いを想像しながら全文を朗読する。(学習①) ◇歴史的仮名遣いの読み方に注意させる。 → DVD・二次元コード 2 芭蕉のものの見方や感じ方を読み取る。(学習②) ・芭蕉の「旅」に対する思いが読み取れる部分を抜き出し、現代の「旅」がもつ意味と比べる。 ・高館や光堂での芭蕉の思いを想像する。 ◇脚注にある歴史的背景を参考にさせる。 3 心に響く俳句について発表する。(学習③) ・自分の心に響く俳句を一句選び、その理由などについて発表し合う。 ◇P156『「おくのほそ道」俳句地図』にある俳句も参考にさせるとよい。 4 学習を振り返る。 ・「夏草」の、表現や文体の特徴を挙げる。 ・芭蕉のものの見方や感じ方について考えたことを発表する。 5 古典の言葉を引用し、メッセージを贈る。 ・P162の手順を読み、これまで学習した古典の文章から、気に入った言葉や心に響いた言葉、誰かに贈ってみたい言葉を選ぶ。 ◇P27・P92・P142・P194「季節のしおり」などを参考にさせてもよい。 ・どのような状況の、誰に、どのような目的でメッセージを贈るのかを考える。 ・自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、選んだ古典の言葉の意味と、伝えたい思いとの関連を意識してまとめる。 6 文章を友達と読み合い、学習を振り返る。 ・相手の状況や自分の思いにふさわしい言葉や文章の種類を選択したか。 ・論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫したか。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) →作者や作品について興味をもち、俳句と地の文との関係に注意しながら朗読している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。 →古典の言葉を引用して鑑賞文やメッセージを書いている。((3)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →芭蕉の「旅」についての考えを読み取り、現代の「旅」がもつ意味と比較している。 →芭蕉が見たものや感じたことを想像している。 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、相手の状況を踏まえて構成を工夫してメッセージを書いている。 【態】人間、社会、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習を生かして発表したり文章にまとめたりしようとしている。
12 月	古典名句・名言集 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・	-	1 「古典名句・名言集」を朗読する。 ・気に入ったものがあればノートに書き出す。 ◇他の詩歌や文学作品なども参考にさせるとよい。 →P27・P92・P142・P194「季節のしおり」	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) →作者や作品の時代背景を知り、古典

	技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)		→P28「学びて時に之を習ふ」 →P272 資「古典・近代文学の名作」 2 気に入った名句・名言を選ぶ。 ◇気に入った一節をノートに書き出させ、私家版名言集などを作らせることも考えられる。	の名句・名言を朗読している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ) →気に入った名句や名言をノートに書いたり、それについて自分の考えを書いたりしている。 【態】長く親しまれている言葉や古典の一節を進んで引用するなどし、今までの学習を生かして朗読したり書き出したりしようとしている。
7 価値を生み出す				
12 月	誰かの代わりに 3 時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表 C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★論説の文章を読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。 (思・判・表 C(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 筆者の考えを確認しながら全文を通読する。(学習①) ・ア 共感・納得できる、イ 反対・納得できない、ウ 疑問・わからないなどの観点に沿って、本文に記号を付けながら読む。 ◇読み終わったら、書き込んだところを共有させるとよい。 2 筆者の考え方について話し合う。(学習②) ・抽象的な概念を表す語句の文脈上での意味に注意しながら、筆者の考え方について話し合う。 ◇抽象的な概念を表す語句や類義語・対義語などの辞書的な意味を調べさせる。 ◇筆者による用語の言い換えや概念の説明のしかたなどにも着目させるとよい。 →P50「思考のレッスン 具体化・抽象化」 3 自分の考えをまとめる。(学習③) ・話し合ったことを基に、社会や人間に対する筆者の考えについて、自分の考えをまとめる。 →P234 資「説明的な文章を読むために」 →P284 資「語彙を豊かに」 4 学習を振り返る。 ・筆者のものの見方や考え方を理解している。 ・社会や人間に対する筆者の考えと自分の考えを比較し、共通点と相違点を述べる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →抽象的な概念を表す語句を辞書で調べたり、文脈上での意味を確認したりしながら、文章を読んでいる。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →文章を批判的に読み、友達と意見を交換しながら、筆者の考えについて自分の考えをまとめている。 【態】人間、社会、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習を生かして、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりしようとしている。
12 月	情報を読み取って文章を書こう グラフを基に小論文を書く 2 時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表 B(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 グラフから情報を客観的に読み取り、自分なりの問いを立てて分析する。 ・着眼点を決めてグラフなどの資料を読み取り、それに対して自問自答して、自分の考えをまとめる。 ◇グラフの数値の読み取り方や分析の方法を話し合わせる。 →P244 資「グラフの活用」 2 構成や内容を考えて小論文を書き、助言し合う。 ・読み取ったことを基に、二段落構成の小論文を書く。 ◇P173「小論文に使う言葉」を参考にさせる。 →P284 資「語彙を豊かに」 ・書いた小論文を読み合い、P172 窓「小論文で自分の考えを書くには」の推敲・助言の観点を参考に、よい点や改善点を伝え合う。 3 学習を振り返る。 ・資料から読み取ったことを基に、説得力のある論	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →具体的な情報を基に、着眼点を決めて分析し、自分の考えをまとめている。 【思・判・表】「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →資料から読み取ったことと考えとの関連などについて、改善点を助言し合って推敲している。 【態】論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえて粘り強く推敲し、学習の見通しをもって小論文を書こうとしている。

	(思・判・表B(2)ア)		理展開を実現できるよう、助言を踏まえてどこをどのように推敲したか。	
12月	漢字3 漢字のまとめ 漢字に親しもう5 1時間 ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	1 二年生までに学習した漢字を復習する。 ・漢字の部首、音訓、成り立ちや構成、送り仮名などを確認しながら問題に取り組む。 ◇同訓異字や同音異義の漢字を調べ、書き分けられるようにさせる。 →P301 資「三年生で学習した音訓」 2 三年生で学習した漢字を復習する。 ・熟語の読み方、造語力などに気をつけながら問題に取り組む。 ◇漢字辞典や国語辞典などを使って調べさせる。 ◇慣用句・ことわざ・故事成語などの意味を調べさせる。 →P284 資「語彙を豊かに」 3 P176「漢字に親しもう5」の問題に取り組む。 →P290 資「三年生で学習した漢字」 →P302 資「常用漢字表」	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
12月	文法への扉2 「ない」の違いがわからない？ 1時間 ◎単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて理解することができる。(知・技1年(1)エ、2年(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	1 教材文を読み、「ない」の文法上の違いを理解する。 ・「ない」という語が意味や用法によって、形容詞、形容詞の一部、助動詞に分類されることを知る。 ◇それぞれの見分け方を理解させる。 →P210「文法 一・二年生の復習」 2 P215「文法2 文法のまとめ」にある文法の問題に取り組む。 ・三年間の文法の学習を思い出し、文の組み立てや単語の種類と働きなどについて復習する。	【知・技】単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて理解している。(1年(1)エ、2年(1)オ) →「ない」の違いについて品詞や働きの違いを文章の中で理解している。 【態】単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて進んで理解し、これまでの学習を生かして課題に取り組もうとしている。
読書に親しむ				
12月	本は世界への扉 エルサルバドルの少女 ヘスース 紛争地の看護師 読書案内 本の世界を広げよう 1時間 ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★二つのノンフィクションを比	1	リード文や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 「エルサルバドルの少女 ヘスース」と「紛争地の看護師」を読み比べ、登場する人物の生き方について自分の考えをもつ。 ・二つの作品の中で共感したことや疑問に感じたことなどを話し合う。 ◇写真や注などを参考にしたり、新聞やニュースなどで紛争地の情報を調べたりして、困難な状況でたくましく生きる人々や世界で活動する人々について考えさせる。 2 P191「本の世界を広げよう」を読み、読んだ本や、興味をもった本について語り合う。 ・読書が自分の人生や社会との関わりをどのように支えてきたか考える。 ◇これから読んでみたいジャンルや作家を挙げさせるとよい。 →P246 資「高瀬舟」 →P259 資「二つの悲しみ」 →P263 資「アラスカとの出会い」 →P269 資「読書記録をつける」	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ) →二つのノンフィクションを読み、読書によって、さまざまな状況に生きる人々やそこで活動する人々について知ったり、読書が自分の生き方を支えてくれることに気づいたりする。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →読書を通して、考えたことや気づいたことを読書ノートに書いたり、「私のおすすめ」として紹介したりしている。 【態】進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習や経験を生かして、ノンフィクションを読んで考えたことをまとめようとしている。

	較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり、文章にまとめたりする。 (思・判・表 C(2)ア)			
12 月	季節のしおり 冬 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	—	・冬の気象にまつわる言葉や、冬の情景を詠んだ俳句や詩、名文を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P70「俳句の可能性」、P272 資「古典・近代文学の名作」、P278 資「日本文学の流れ」などの資料として用いてもよい。 ◇冬をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →作品中の「冬」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。